

「学ぶこと、生きること」

ねらい

- 学ぶことが生きることと結びついていることを知る。
- 今の自分たちの生き方を問い、これからの自分たちについて考える

対 象

- 高学年

指導計画

- 夕やけが美しい (1時間)
- 北代色さんの生涯 (1時間)
- 赤岡町識字学級で学ぶ人たち
識字学校 (にんげん) (2時間)
- 一字一字力を込めて (2時間)
- 映画『学校』 (7時間)
春日中学校夜間学級の先生からの聞き取り
春日中学校夜間学級の生徒からの聞き取りとお寿司作りの実演
- 学ぶこと、生きること (10時間)

展開例

| | 学習内容 |
|----------|---|
| 夕やけが美しい | <ul style="list-style-type: none"> ・何歳ぐらいの人が書いた手紙か予想する。 ・字を覚えた北代さんはどんなことを感じたのか考える。 ・字を覚えた後で見た夕やけは、なぜ本当に美しかったのか考える。 ・北代さんに10年長生きしたいと思わせたものは何であったのか考える。 |
| 北代色さんの生涯 | <ul style="list-style-type: none"> ・北代さんの生い立ちを知る。 ・なぜ北代さんは文字を学ばなかったのかに着目する。 ・識字学級に参加しようとする北代さんの思いと識字学級での努力を知る。 |

| | |
|--|--|
| <p>赤岡町識字学級で学ぶ人たち</p> <p>識字学校</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今も識字学級で学ぶ人たちがいることを知る。 ・北代さんの他にも、奪われた文字を取り戻すために努力するたくさんの人たちの姿や思いを知る。 ・識字学校を読み、識字で学ぶ人たちのすばらしさやたくましさをとらえている作者の思いに気づく。 ・自分たちのくらしと比較して、識字で学ぶ人たちの生き方を考え、自らのくらしを見つめる。 |
| <p>一字一字力をこめて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・二十歳を過ぎても自分の名前が書けなかった母の生きざまを読みとる。 ・一字一字力を込めて書くとは、どういうことなのかを考える。 ・奈良市をはじめ、身近なところで、文字を取り戻すために学ぶ多くの人たちが努力していることを知る。 |
| <p>映画「学校」</p> <p>春日中学校夜間学級の先生からの聞き取り</p> <p>春日中学校夜間学級の生徒からの聞き取りとお寿司の実演</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校」を視聴し、夜間中学の存在を知る。 ・春日中学校夜間学級の先生と生徒に来校していただき、出会いの中で夜間中学で学ぶ人たちの姿や願い、思いを具体的に知り考える。 ・夜間中学の生徒さんにお寿司作りの実演を見せていただく。 |
| <p>学ぶこと、生きること</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各自で課題を定め、課題追求の方法を工夫し調べたり、まとめたりする。 <p>《課題例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北代色さん ・識字学級 ・夜間中学 ・ユニセフ ・国際識字年 ・世界の識字の取り組みなど <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを新聞にまとめて発表する。 ・これまでの学習で気づいたこと、学んだことを振り返り、今の自分たちの生き方を問い、これからの自分たちについて考える。 |

教材

- 夕やけが美しい
- 『識字学校』（「にんげん」大阪府人権教育研究協議会）
- 『一字一字力をこめて』（「旧なかま」奈良県人権教育研究会）
- 「学校」（松竹ホームビデオ）

おたくしほうちがびんぼうであつたので
がっこうへいってあります。
だからじまげとせくしりませんでしたが、
いましきりが、ちゅうでづんきようして
かなはだいたいおぼえました
いままでおしりやへいってえうけついで
なまをながいてもらつていま、たがためし
にじぶんでがいでためしてみました。
かごふさんが北代ホムとくどんでくめたので
スヘムうれしかつた。

おやけを見てもあまりうつくしいと
鬼はながつたけれどじまをおぼえて
ほくとうほうつくしいと思つたうら
なりました。みちをあるいておつても
かゝるはんにきをつけていてなつた
りを見つけるとスヘムうれしく思ひます

すうじおぼえたのでスパーヤもくよう
いちやくのもたのしみになりました
またりとかんへ行つてもやのばん
ごうをおぼえろのはともががなく
なりました。これからはかゝるはつて
まゝともとづんきようをしたいです。
十年ながいおもしたいと思ひます。

四十八年三月十八日

北代色

森田 春すゝさま